

特集『読書のススメ』



学力向上の秘密は家庭に…。

子どもの読書習慣は親がつくる



図書室長より

本には著者の考えが詰まっていて、それを読む人にとっては、自分では気がつかなかった新しい発見や感動があるかも知れません。又、それを読むことによって自分が登場人物になりきり、新たな世界が広がったりもします。さらに、「あーこういう考えも、見方があるんだなあ」と相手の気持ちを理解することでコミュニケーション力なども養われます。

「本の世界へ、ようこそ。」
ここには、あなた達との出会いを、心待ちにしていた本たちがいっぱいいます。

Q

子どもたちが楽しく読書をするにはどうすれば良いでしょうか？

A

親子で本を探したり、一緒に読んで共感するのが良いのではないのでしょうか。ぜひ読書通帳にも目を通してみてくださいね。

図書館の本には、先生方や子どもたちによる手作りのポップが添えられ、知的好奇心を刺激します。



「推理小説で国語力UP」

私は特に国語力UPの方法として、推理小説を読むことを勧めたいと思います。

推理小説を読むときは、などを解くためにどこかに隠れているなどを解く鍵を探り、微妙な表現を見逃さず一つひとつの言葉をとらえながら読んでいくことが必要です。時には、つじつまを合わせようと前の場面を何回も繰り返し読み返すこともあるでしょう。

そのことが、読みを鍛えることになるのです。さらに、「なぜ、そうなるのだろうか」と問いかけながら読むという姿勢は、すべての学習につながっていると思います。

『人生は、決して後戻りはできません』

というのは、数多くの推理小説を書いたアガサ・クリステイの言葉です。しかし、文字をとおして、「あのとき」に戻り今をとらえることは、文章を読み取る力を鍛えるだけにとどまらず、生き方を学ぶことにつながるのではないかと私は思います。「地あたま」を鍛えるためにも、私は「読書」をおすすめします。読書にはさらに「地あたま」を鍛えるだけではなく、貴方の人生を楽しくする栄養も盛り沢山つまっています。

読書の力

教頭 幸田美智子

私の今までの経験から成績の良い子・学力が確実にながっている子の特徴として、子どもが家庭で育つ中で身につける力が大きく影響しているのではないかと思います。日頃の挨拶やマナー等のしつけも含みますが、それは、「知的好奇心の高さ」と言い換えることができます。

この知的好奇心、すなわち「地アタマ」がどれだけ鍛えられているかを左右するのは、本を読む習慣ではないかと思っています。

物事を理解する力に優れ、地アタマの良さを発揮する子は、幼い頃から保護者が本を読み聞かせたり、図書館に連れて行ったりして、活字を読む習慣ができていくことが多いです。

また家庭においても、保護者が本や新聞を読む姿を常に見ているので、読書に対して「敷居が低い」のが特徴です。

江戸時代の寺子屋では「読み・書き・そろばん」を教えたが、やはり最初にくるのは「読書」です。読書が培う力（国語力や言葉の知識、読解力）は、あらゆる教科の学習の基礎学力に欠くことができないもので、読書によって育まれた豊かな感性や情操、思いやりは、子どもたちの心の発達に大きな影響を与えるとされています。

これに加え、文部科学省では、読書活動は人生をより深く生きる力に身につけていくうえで欠くことのできないものであるとして、平成18年に「子どもの読書活動推進に関する法律」を公布し、平成29年には「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を定めました。

これらをふまえ、「子どもの読書活動推進計画」に沿って、学校内でも様々な読書啓発活動が進められている所です。